

総合心療センター 精神科

センター長 戎正司

【診療体制】

2024 年は、元旦の午後 4 時過ぎに起きた能登半島地震で年が明けてしまいました。元旦の夕暮れ時に、都会から帰省した家族が揃って団欒していたところを突然襲った地震に、やがてくると言われている南海トラフ巨大地震のことを想像してしまい、強い予期不安に襲われ暗い気持ちで新しい年を迎えることになってしまいました。そして 8 月 8 日に日向灘を震源とする地震が起こり、その直後に気象庁より南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された時にはいよいよきたかと思いましたが、1 週間後にその臨時情報は終了となり、よさこい祭りは 8 月 9 日から 12 日まで予定通り開催されました。結果オーライということでしょうか。

2024 年、我が精神科の診療体制の大きな変化は、4 月 1 日付で森学美先生が科長に昇進したことです。すでに精神科チーム医療でリーダーシップを発揮している先生の昇進は本当に嬉しいことでした。そんなこともあり、近森病院第二分院時代に由来する精神科病院の機能と、近森病院総合心療センターとしての総合病院精神科の機能を、多職種によるチーム医療の実践により、バランスよく発展させていく診療体制が整いつつあります。

その実践について、7 月に高知医療センターで開催された第 26 回有床総合病院精神科フォーラムで、山下高明先生が「有床総合病院精神科における難治例の検討」、森学美先生が「地域連携を見据えた総合病院精神科の展望」をそれぞれテーマにしたシンポジウムにシンポジストとして登壇し発表してくれました。また、11 月には専攻医の小松大佑先生が、第 64 回中国・四国精神神経学会で思春期症例の入院治療について症例報告をして研修の成果を発表してくれました。10 月には山下先生が、救急患者精神科継続支援料にかかる要件研修「自殺再企图防止のための救急患者継続支援研修会」に参加し加算が取れるようになりました。

2025 年も引き続き、一方的な情報伝達ではなく、相手の気持ちを想像しながら相互交流するコミュニケーションを心がけ、多職種連携による質の高い価値のある精神科チーム医療を発展させていきたいと思います。